



# 大梅

DAIBAI



大梅拈華山圓通正法寺

# ご挨拶

正法寺 山主 盛田 正孝

本年も皆様方にとりまして良き一年となります  
様御祈念申し上げます。

日頃から正法寺の為に、お心をお寄せ頂き誠に  
有難く存じております。お陰様で悉なく修行させ  
て頂いておりますこと重ねて御礼申し上げます。

## 年頭のご挨拶

正法寺末寺護持会会長 願成寺 芳川 春彦

太祖大師の700回大遠忌を来年4月に控え、  
本年は全国各地で預修法要が修行されますが、私  
達の眞の報恩行とは何かを考える時、「寺離れ、  
葬式離れ、墓じまい等々の問題は殆ど僧侶の有り  
様に集約されてしまいます。即ち「僧侶の質の  
劣化」などと表現されてしまうのです。その理  
由は、世間の人々の考へている僧と言うのは、  
どこか世俗と切り離されているところがあるか  
らこそ僧なのに我々と同じではないか。僧の世  
俗化どころか世俗そのものではないかと言う批  
判もあります。その様な時だからこそ太祖大師の  
御誓願とその御生涯に思いをいたすことが大切で  
す。即ち高祖大師の正法を真っすぐに体得され、  
さらにそれを世俗に墮することなく民衆化する  
という最も困難な事を成し遂げられ、更には檀  
信徒の信心によりて自らの僧としての有り様を完  
成とさせて頂きます。

本年も何卒宜しくお願ひ申し上げます。  
末筆ながら皆々様のご隆盛と諸老師皆様の法體延長  
を祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

令和5年癸卯改歳の令辰に当たり、皆様方には良き  
新年をお迎えのこと大慶に存じ上げます。感染者が  
一向に減少しない昨今ですが、国も行動制限をしな  
いウイズコロナの生活に舵を切るようになり、各地  
において従来の伝統行事など復活するようになつて  
きました。正法寺においてもお陰様でここまで山主老  
師を始め役寮の皆様のご努力により、山内から感染者  
を出さない状態を保つて頂いております。

また、昨年も各種の新しい行事などを感染防止策を  
とりながら積極的に開催し、一般の方々に広く開放し  
て時代に即した正法寺の新しい姿を築こうとしており  
ます。また、昨年も各種の新しい行事などを感染防止策を  
とりながら積極的に開催し、一般の方々に広く開放し  
て時代に即した正法寺の新しい姿を築こうとしており  
ます。

末寺並び正法寺を支援して下さる多くの皆様の更な  
のがあると存じます。些か所感を述べまして御挨  
拶とさせて頂きます。





## 僧堂だより

正法寺 後堂 春日 和光

令和4年夏安居解制時、大衆7名でした。8月お盆前後に4名が送行、その後新たに4名が上山入堂し安居者数に異動ありません。▼10月1日、僧堂換簾(夏用の涼簾から冬用の暖簾に掛け替える。)

▼17日、冬制中の配役行茶、首座入寺式(配役首座)は本県氣仙郡住田町城玖寺徒弟・木村孝秀兄)、結制土地堂念誦を勤め冬安居に入りました。叢林の修行に時間・制中の違いは無いとは言え、首座和尚がその日の日の行持や作務を計画立案して山主にお伺いし、了解を得た上で山内告報を発令。大衆を率先垂範し、真摯に行持を務めている姿は、清々しく感じます。▼11月1日、開炉(扇風機を収納し石油ストーブを各所に配置)。15日、本則行茶(年2回の結制で山主が順次に拈提し来り、今次は「從容

式(法問は10問、元安居者の隨喜を得て)修行。この法戰式より以後首座は、白杉の付いたお袈裟を着用して諸行持に随喜することになります。白杉付の袈裟着用により、法要行持が引き締まる。同時に、首座和尚自身の修行意識が日々深まり行くのを感じるのは私一人だけの思いではなく、山主を始めとする全役寮の認めるところであります。また、正法寺では、安居したからには(本首座、配役首座の別なく)一度は首座を務めることを山内での申し合わせにしているところです。▼12月1日～8日未明まで臘八摸心。摸心半ばより山主ご縁の「藏輝会」会員有志5名の宗侶のご隨喜と毎月第2・第4土曜日に実施している参禅会会員有志の5名の参禅を得まして、僧堂の内堂外堂の单がほぼ埋まり、満堂の感を呈した摸心を目の当たりにして感慨無量なるものがありました。▼摸心中の一提唱に代り、恒例の「藏輝会」会員の方より大衆に講義をいただきました。その講義の中で「自分は今まで様々な方々とのご縁をいただく中で、種々のご教授やご指導をいただいたお蔭で今の自分というものが形成されている。市販されてる食品等に『成分表示』がありますね。私自身が今、このような人格が形成されたりことを表現する方法として、『成分表示』という形で説明することができます。あの方よりのご教授の成分、この方よりのご薰陶いただいた成分等々、いろんな方々のお蔭で今の自分の形が作られ

ているんだなあ。」としみじみ語られたことは、新たな話し方の一つとして新鮮な驚きを以て拝聴したと共に、講義を受けた大衆にとつても「教化法の手段としてこれは使える」と思ったのではないかと思いました。▼摸心中の一坐の口宣で「半跏趺坐をしている大衆がいるようであるが、痛いからといって結跏趺坐を避けていてはいけない。痛くとも、為せば成る。為さねばならぬ何ごとも、成らぬは人の為さぬなりけり」の上杉鷹山公の和歌を、某の永平寺安居の大衆の頃、当時の西堂・大栄寺専門僧堂堂長の川口賢龍老師が坐禅の都度、口宣されていたのを想い出して大衆に伝えたところ、「一炷だけ結跏趺坐をしてみましたら、痛いけど何とか坐れました」と話す大衆が一人またひとりと出てきたことは嬉しい成果の一つでした。▼12月8日禹中には山主導師による成道会、9日薬石寵より断臂摸心、10日課寵に侍真和尚導師による断臂会修業▼11月末に学科で予習した上で12月23日僧堂念誦(巡堂)と28日僧堂念誦(免巡堂)▼12月31日、後堂導師で歳末土地堂念誦、歳末諷經。除夜の鐘、山主第一声鳴鐘に続き参詣者順次に鳴鐘▼令和5年1月1日、山主導師により元朝大祈禱会。2日、新春大祈禱会。6日(小寒)、正法寺伝統の寒行托鉢初日。以下2月3日節分まで修行(従前は休みなしでしたが、コロナ禍により土日祝日は不行)。「普段はデイサービスに行っていて思わず喜捨する方、おばあちゃんがお孫さんの手に硬貨を握らせ今か今かと待っていて、温かくなつた淨財を手渡す方等々、様々な出会いがあります。その施財を受ける度に目頭が熱くなるのを覚え果たして自分達は應供の資格があるのだろうか」と自戒し、「恥ずかしくない禅僧として一層修行に邁進せねば」と、役

近所のお茶飲み友達と一緒に茶の間のサッシを開けて手招きする方、通りすがりで態々停車して手渡しされるタクシーの運転手さんやハイクのおじさん、クリニツクの玄関から出でてきたところに遭遇して思わず喜捨する方、おばあちゃんがお孫さんの手に硬貨を握らせ今か今かと待っていて、温かくなつた淨財を手渡す方等々、様々な出会いがあります。その施財を受ける度に目頭が熱くなるのを覚え果たして自分達は應供の資格があるのだろうか」と自戒し、「恥ずかしくない禅僧として一層修行に邁進せねば」と、役寮大衆とともに願行を立てる難値難遇の機会ともなっています。▼1月14日、解制土地堂念誦、15日課寵、小參、解制人事行礼、円鏡調印式。16日解制、粥寵1名が送行し一旦は6名になりました。▼2月15日、盛田正孝山主導師で涅槃会(仏画に用いる涅槃図の開眼供養を併修)、安井氏による涅槃図講演会▼現在2～3名の上山照会があり、新到和尚が新たに加わって一通りの公務を覚えた頃に羅漢講式を修行したいと、古参を対象に声明練習を重ねている現況です。

令和四年冬制中  
**首座法戦式**

『地蔵種田』

10月17日（月）より、配役首座・木村孝秀（岩手県235番 城玖寺徒弟）、書記・伊藤裕磨（岩手県120番 菩生院副住職）、辨事・長岡孝禪（岩手県80番 寳昌寺徒弟）を中心に、冬制中に入りました。

入制に際し、10月17日（月）に配役行茶、首座入寺式、土地堂念誦が、翌18日（火）朝課罷に法堂人事行礼、僧堂人事行礼をそれぞれ修行しました。

11月15日の本則行茶では、盛田正孝山主から提唱を頂きました。翌日16日には、首座法戦式が厳修されました。今制中も新型コロナウィルス感染拡大防止の為、山内役寮、大衆のみでの法戦式となりましたが、10人の問者と気迫溢れる問答を交わし、見事説破致しました。



# 本制中に当たつての意気込み



## 『配役首座』

岩手県 第235番  
城玖寺 徒弟 木村孝秀



## 『弁事』

岩手県 第80番  
寶昌寺 徒弟 長岡孝禪

私は令和4年の冬制中において首座の位を頂戴致しました。僧堂における第一座という大役に、いつそう身の引き締まる思いでいっぱいです。

上山してから約半年、日々自分の修行を精一杯やってきましたが、これからは首座として修行僧全員を引っ張つていかなくてはなりません。大衆の手本となる為には、半端な気持ちではやっていく事はできません。毎日の作務、公務、そして法式進退等、私自身の一挙手一投足をより丁寧に打ち込んでまいる所存です。

現在、ここ正法寺の安居者は私を含めて7名となり、4名の新到が入ってきました。私自身半年前は右も左も分からぬまま、多くの方々の御指導により首座の位を戴けるまでになりました。修行僧のリーダーとなる上で、他の大衆の姿は今までの私自身と思い、日々を供にし、研鑽し、高め合いながら引き締まつた制中にしていきたいです。

合掌

今冬制中、弁事の配役を頂きました。弁事とは、首座法戦式において開口板を読み上げ、法門の第一問を首座へ問う任であります。また、制中の間、首座を書記と弁事が補佐するものであり、今一度、修行に対する意識や行動を引き締めて弁道精進していく所存であります。

道元禅師の教えに「修証」等」という言葉がありますが、只管に修行に打ち込む姿そのまま悟りの姿であるというお示しです。様々な性格、性質を持つた修行僧が一如となって和合し、好き嫌いをすることなく行をしていきたいと思います。時間は無限ではありますんし、正法寺での修行も無限に出来るわけではありません。光陰矢の如し、時間を無駄にせず毎日を大切に、正法寺で修行できる御縁を大切にしながら、日々勤めて参りたいと存じます。





# 臘八摂心・成道会

12月1日～8日にかけて、臘八摂心が修行されました。

12月1日から1週間、お釈迦様が菩提樹の下で坐禅をされ、12月8日にお悟りを開かれたことを修行で体現する臘八摂心。今年も、修行僧が8日間に渡り坐禅修行をおこないました。本摂心も県内外より有志僧侶の皆様が来山され、共に摂心修行ができたことは修行僧の励みとなっただけではなく、専門僧堂としての新たな一面を見る事ができました。

8日間にわたりて坐禅修行を終えた修行僧は、成道会献粥誦経の後、小参でその思いを春日和光後堂へ問話して摂心期間を終えました。



## 臘八摂心 隨喜者より

藏輝会代表 北海道 洞參寺 小林正胤

私が初めて正法寺様へ拝登させていたいのが今から8年前。そして攝心へ随喜したのが7年前だったと記憶をしております。

藏輝会の発足時に会員で話をしておりました『何處で誰と坐つても坐禪は坐禪』と理解していくも、それでも『誰と坐りたいか』と曰へ問うた時の会員の答えが山主老師でした。

講師として拝請を願い、毎年北海道までお越し頂き、

坐禪、法話と共にさせて頂き、その話の中で折々出てくる『正法寺は修行するには最高の場所だと思います』と言ふ正法寺愛が私達会員を更に引きつけました。

12月の岩手の内陸山間部、正法寺は底冷えする寒さであります。私たちも今回も都合で僅か1泊2日十粂ほどの短いものでしたがその寒さのなかでも山主老師、山内の皆様と共に坐る時間は素晴らしい一時でした。凜としつつも、同じ佛道を歩む仲間であるという思いを強く感じる事が出来る、どこかあたたかい雰囲気でした。

20数年前に自分の意思で永平寺を送行したもの心の何處かに『もう一度安居をしたい。』と、いう思いと『住職という現実を考えると難しい』という思い(なのが言い訳なのか)の葛藤を抱えながら、時間に追われる事の多い毎日。いつもより少しだけ坐禪に親しむことが出来ました。又、受け入れの準備から滞在中のお食事や宿泊後の片付け等、雲水さんのかききびした動きを見ているだけで初心を思い起すと同時にお世話になりました皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

神奈川県興教寺副住職 浅摩泰真

この度、12月7日より正法寺臘八摂心会に随喜させていただきました。

粉雪舞う摂心7日目。悠然とした伽藍の美しさも然る事乍ら、安居者の姿勢は素晴らしい、6日間蓄積された足の痛みに耐えながらも、坐禪に向き合う真摯な姿に心洗われました。御山内の諸老師と安居者7名、隨喜寺院により僧堂の单は埋まり、深夜まで続く坐禪は無事開閑を迎えました。

仏殿に場所を移して行われた釈尊成道会・献粥諷經・小参では、導師の春日後堂老師が、安居者と迫力ある問答を交わされました。厳しくも慈愛に満ちた言葉に私自身も励まされました。

快晴に恵まれた8日の成道会・献飯諷經では、摂心を終えた清々しさが法要にも表れ、安居者の芯の通った美しい所作が際立ちました。法要後に、修行僧の大半が今年の夏に上山されたと聞き、その成長ぶりに大変驚かされました。

盛田山主老師は提唱の中で、「身心脱落話」について触

れ、「道元禪師様が大悟徹底に至る様子を我が身に引き当てて、指導者と修行者の必死のやり取りがそこにある事を深く参究しなければならない」とご教授頂きました。改めて、安居者の目まぐるしい成長の背景にあるのは、盛田山主老師はじめ諸老師方と安居者の並々ならぬ日々の努力があると感じました。

坐禅を通して「心」と「作法」を学び、正法寺の皆様、参禅会で一緒に坐る仲間と沢山のご縁をいただきました。御礼申し上げます。



## 土曜参禅会 有志の方より

新田直美

12月3日、正法寺の皆様とともに、坐禅修行の機会をいただきました。土曜参禅会とは雰囲気も異なり、僧堂内には凜とした空気が流れています。皆様の懸命な想いが、内单から外单で坐っている私にも伝わり、ともに一粂、一粂を大切に坐りました。時間が経過すると、ますます僧堂内は静寂に包まれます。

食事も修行のひとつですが「しっかりと食べて頑張りなさい」という想いが込められていました。中食を頂き、身も心も温まり、一生忘れられない味となりました。

4年前に正法寺で坐禅に出逢った私は、作法の多さにも驚きました。春日後堂老師、松森单頭老師、海野布教師の丁寧で美しい作法を間近で拝見し、常に美しいお姿でおられるのは、ひとつひとつでの作法に「心」が込められていると気づきました。

坐禅を通して「心」と「作法」を学び、正法寺の対応を含め大変御苦労があつたことと存じます。私共隨喜寺院の為にたくさんのお心遣い頂戴しましたこと厚く御礼申し上げます。

## 両祖忌



令和4年度正法寺両祖忌は、当初岩手県宗務所第6教区護持会総会並びに人権学習会と併修して行う予定でおりましたが、コロナ禍のため中止することと相成りました。そこで、山内のみで厳修するつもりでおりましたところ、岩手県第6教区曹洞宗青年会の禅修会様より青年宗侶の研修ため合同で両祖忌を執り行いたいとの申し出があり、禅修会様と合同で行うことと致しました。御導師は、禅修会会长様にお勤めいただき、諸配役は禅修会様と山内修行僧でそれぞれ振り分け、両祖忌を厳修させていただきました。

また、両祖忌終了後に岩手県第6教区布教教化員による人権学習を行うということでありましたので、禅修会会員様と共に山内修行僧も人権学習会に参加させていただきました。



例年、10月16日に厳修しております「熊野大権現大祈祷会」は、新型コロナワイルス感染拡大防止の観点から山内修行僧と役寮のみの行持となりました。そんな中でも、沢山の祈禱札のお申込みをいただき、祈願者の無病息災とコロナウイルスの早期収束を祈り、盛田正孝山主を導師に熊野大権現大祈祷会が執り行われました。



大晦日の午後11時45分、盛田正孝山主の第一声を皮切りに除夜の鐘が撞かれました。本年も昨年と同様に新型コロナウイルスの感染防止策を講じながら、参詣者の皆様に除夜の鐘撞きをしていただき、新たな年への安寧と平和を願いました。



1月6日より2月3日までのあいだ、寒行托鉢が修行されました。正法寺では、瑩山禪師がお示しの「師檀和合」の実践でもある托鉢が役1ヶ月間行われております。本年も修行僧と役寮のみならず、近隣寺院様のご随喜もいただき、奥州市水沢地区内と門前を歩きました。例年に比べて雪が少ない中で始まりましたが、大寒を過ぎたあたりから寒さが厳しくなって参りました。そんな中でも、住民の皆様は、玄関からお出になり淨財を頭鉢の中に入れてくださいました。托鉢をする私たちも修行ですが、寄進なさる方も修行、さらには我々に手を合わせたり、手を振る子供たちにも修行となります。さらには、市民の皆様の安寧とご多幸をお祈りしながら歩き寒行托鉢を修行致しました。

## 熊野大権現大祈祷会

## 除夜の鐘

## 寒行托鉢

## 開かれた禅苑

### 野点



令和4年11月16日(日)、秋晴れの日曜日、アウトドアブランドのスノーピーク主催のヨーカルツーリズムに参加された方が正法寺に御来山されました。まず僧堂にて坐禅を体験された後、典座和尚特製の温かい飲み物とお菓子を御賞味いただきながら、紅葉と巨大茅葺き屋根を満喫されました。

令和4年10月30日(日)、遊弦楽舎主催による薩摩琵琶と語りの雅楽「修羅と浄土」の公演が、正法寺法堂を会場に催されました。公演には沢山の皆様に御来山いただきました。義経の平泉にまつわる壮絶な人生を語りと箏と雅楽で表現される遊弦楽舎の雅な調べが法堂内に響き渡りました。



令和4年9月27日(火)、岩手県宮古市立崎山中学校の生徒さんが修学旅行で正法寺を訪れ、法堂において坐禅体験をされ、静けさの中で、自分を見つめる時間を過ごされました。

## 修学旅行

## 上山者紹介

令和四年冬 安居

東京都第386番  
龍昌寺 徒弟

石原 大輔



山梨県第106番  
福寿院 徒弟 永井 無名



山梨県第106番  
福寿院 徒弟 永井 無名

秋田県第116番  
龍安寺 徒弟 熊谷 浩雄



秋田県第109番  
龍門寺 徒弟 浅田 高隆



私は昨年  
8月末に、  
正法寺専門  
僧堂に上山  
いたしました。  
た。在家中  
つ、50歳を  
迎えた「お  
じさん」が  
修行など勤  
まるのか上  
山前から不  
安でした。案の定、合掌、叉手低頭の仕方や食  
事の作法など、基本的な進退を何度も直されま  
した。「自分はこんなこともできないのか」と  
自己嫌悪に陥ることもありました。當役も始  
めは失敗の連続でした。そんな中、山主老師  
に「何度も失敗しながら上達すれば良いんだ  
よ。そこが正法寺の良いところだから。」とい  
う励ましのお言葉をいただき、気持ちが楽にな  
りました。そして、山内の皆様が懇切丁寧にご  
指導くださったお陰で、段々と法式進退が身に  
ついてきました。

相見の拝の際に、山主老師から「修行は自  
分持ち」というお言葉を賜りました。安居生  
活を修行の場として有意義に過ごすことが出来  
るかどうかは自分次第です。このことを肝に銘  
じながら残りの安居生活を送っていきたいと思  
います。

合掌

## 送行者紹介

令和4年秋、正法寺専  
門僧堂に上山いたしまし  
た。安居は4ヶ月と短い  
期間ではありましたが、  
正法寺で多くの事を学ば  
せていただきました。



秋田県第109番  
龍門寺 徒弟 浅田 高隆

同安居に恵まれました。初めの頃はまとまりの無い中、自  
分と他人の「普通」の差が原因で口論になり、存在を煙た  
がることもありました。しかし3ヶ月が経つ頃には、価値  
観のモノサシの目盛りが合致して、なんでも理解し合える  
仲になりました。人間の正しい、正しくない、良い、悪い  
など大した問題ではないことに気づかされました。互いに  
歩み寄る気持ちが大切なのだと思います。そして、自分の  
周りにいる人々は、自分を高めてくれるありがたい存在  
だという事にも気付かされました。

安居前は不自由ひとつない暮らしで、携帯電話を便利に使  
い、自動車で自由に外出することができました。しかし、  
正法寺専門僧堂では禁足期間中、外出はもとより、家族との  
連絡も許されないという厳格かつ規則正しい生活。  
また、些細な事にも喜びや、尊さを感じられるようになり  
ました。

正法寺専門僧堂をまもなく乞暇しますが、この『大梅』  
がお手元に届く頃には、大本山總持寺に上山している予定  
です。

ここでの学びをこれから的人生に活かしていきたいと思  
います。ありがとうございました。



# 山門行持

【令和4年】

9月12日	當山輪住三祖	逮夜
導師	松森弘隆	單頭
9月13日	當山輪住三祖	正當
導師	春日和光	後堂
9月28日	兩祖忌	逮夜
導師	春日和光	後堂
9月29日	兩祖忌	正當
導師	春日和光	後堂
10月4日	達磨忌	逮夜
導師	松木昂龍	講師
10月5日	達磨忌	正當
導師	春日和光	後堂
10月16日	熊野大權現大祭	
10月17日	冬安居配役行茶	
10月18日	結制人事行礼	
11月15日	本則行茶	
11月16日	首座法戰式	
11月21日	太祖降誕会	
12月1日～8日	臘八摶心	
12月8日	成道会	
12月9日	断臂摶心	



12月31日

土地堂念誦  
導師 松森弘隆 単頭

【令和5年】

1月1日～3日 初詣参拝

1月6日～2月3日 寒行托鉢

1月14日 解制土地堂念誦  
導師 春日和光 後堂

9月12日	當山輪住三祖	逮夜
導師	松森弘隆	單頭
9月13日	當山輪住三祖	正當
導師	春日和光	後堂
9月28日	兩祖忌	逮夜
導師	春日和光	後堂
9月29日	兩祖忌	正當
導師	春日和光	後堂
10月4日	達磨忌	逮夜
導師	松木昂龍	講師
10月5日	達磨忌	正當
導師	春日和光	後堂
10月16日	熊野大權現大祭	
10月17日	冬安居配役行茶	
10月18日	結制人事行礼	
11月15日	本則行茶	
11月16日	首座法戰式	
11月21日	太祖降誕会	
12月1日～8日	臘八摶心	
12月8日	成道会	
12月9日	断臂摶心	

# 安居者募集中

正法寺専門僧堂では、安居者を募集しております。少子化が進む現代において、

盛田正孝山主の考える僧侶教育を実践するべく、大本山永平寺維那を務めた春日和光

後堂をはじめ、現在は14名の役寮が従事し修行僧の育成に励んでおります。四九日に

おいても暁天を欠かさずおこなう山風のかで、典座和尚による精進料理、維那講師

による法要指導、特派梅花講師による梅花講義、特派布教師による布教の心得など多岐にわたり修行経験を積むことができるのが正法寺専門僧堂の特徴です。

僧堂の在り方が問われる今、お弟子様の修行の場として、正法寺専門僧堂をご案内いただければ幸いです。安居募集期間は、春と秋の解閑期間となります。修行期間においてもお受けすることができます。その際は、ご相談ください。

また、参禅の経験を長く積まれた方で、本来の修行を経験してみたい一般の方の修行も募集しております。ご本人の希望をお聞きしながら、期間や内容を決めることができますので、修行体験をご希望の方はご連絡ください。ただし、修行には、参禅道場からのご推薦をいただいてのお申込みとなります。

正法寺専門僧堂は年間2期間の開旦過を設け、弘法利生を志す安居者を募集しております。

夏安居開旦過 1月20日～3月31日 / 冬安居開旦過 7月20日～9月30日

## 《掛搭資格》

\*曹洞宗の僧籍簿に登録されている者であって中学校卒業以上の者。

本山僧堂への安居修行後、更なる坐禪修行、参究・実践を積まれたい方。諸事情により、本山僧堂への安居が難しい方も御相談下さい。※正法寺専門僧堂堂則より引用

僧堂安居を希望される方は、「正法寺専門僧堂 監事寮」までお問い合わせ下さい。監事寮より掛搭志願資料をお送り致します。

## 正法寺専門僧堂 監事寮

Tel. 0197-26-4041(代) / Fax. 0197-26-4107(代) / Url. shoboji.net/professional\_sodo/

受付時間 9:00～17:00 (11月～3月は16:00まで) 無休

- 正法寺發展興隆奉贊會協贊者御芳名 -

(令和4年 6月1日から11月30日まで受付分)

正法寺発展興隆奉賛会事務局より  
は6月1日から翌年5月31日までと  
なっております。令和4年度、11月  
30日までに会費、協賛金を納入賜り  
ました御寺院様、個人・企業の皆様  
の御芳名を上記に掲載しております。  
これから会費、協賛金の納入をお  
考えいただいている皆様には同封の  
郵便振替払込用紙に合計金額と  
住所、寺院番号、寺院名(氏名)、  
電話番号を記入の上、納入下さい  
ます。よろしくお願い申しあげます。  
なお、郵便振替払込領収書を本会  
の領収書に替えさせていただきます  
ことといたします。  
よろしくお願いします。